

「あいさつ」は国境を越えて

福島県相馬市立向陽中学校

三年 齊藤 明友香

私の通っている中学校では朝の七時三十分から五十分までの間、生徒会役員と学年委員会と生活安全委員会の生徒が「あいさつ運動」という活動を行っている。昇降口に立って登校してきた生徒にあいさつをする、それが『あいさつ運動』だ。

私自身も生徒会役員なので、日々『あいさつ運動』に取り組んでいる。あいさつの活性化をねらいとして行っているのだ、しっかりとあいさつを返してもらえるよう元気にあいさつしている。でも、一人だけ絶対にあいさつを返してくれない子がいる。返してくれないというより「返せない」と言ったほうが正しいのかもしれない。彼は中国生まれ中国育ち、中国語しか話せないのだ。授業は支援員の方が専用の端末を使って受けているが、授業以外の、登下校、休み時間は一人だ。日本語を話すことも読むこともできない彼に、日本語の「おはよう」が返せるわけがない。だから、彼からの「おはよう」は諦めていたのだ。でも、本当にそれでいいのだろうか。どうにかして、彼とあいさつしあえることはできないのだろうか。そこで思いついたのが「今よりも大きい声であいさつをする」「中国語であいさつをする」の二つだ。まず「今よりも大きい声であいさつをする」

という作戦を実行してみた。だが、効果はゼロ。こちらを見向きもせずいつも通り、通り過ぎて行ってしまった。何日か続けてみたが、やはりダメだった。そこで、二つ目の作戦「中国語であいさつをする」を実行してみた。中国語の「おはよう」は「早上好(ザオシャンハオ)」という。試みようと思ったが一人で言うのが恥ずかしくて言えなかった。そこで私は同じ生徒会役員の子に頼んで一緒に言ってもらうことにした。次の日の朝、「せーの」の合図で「早上好。」

と言ってみた。彼は驚いた顔でこちらを見たあと、首をかしげながら通り過ぎてしまった。あいさつは返してもらえなかったが、彼が反応してくれたことがとても嬉しかった。何日か続けたある日のこと、いつものように「早上好。」

と言うと、彼の口から「早上好。」

と聞こえたのだ。初めて聞いた彼の声。でも、彼の声だと確信した。なぜなら、彼はこちらを見てにこにこ微笑んでいたのだ。私はとても嬉しくなった。それから毎日欠かさず彼に「早上好」と声をかけた。彼も必ず返してくれた。

ある雨の日、彼は傘を差して登校してきた。そして、彼のほうから何か言ってきたのだ。中国語なので理解できなかったが、彼が傘を指差していたので「傘置きはここ？」と言っているのだらうと思った。教えたいけど中国語が話せない。だったら彼と同じ身ぶり手ぶりで表現すればいい。私は彼を手招きで呼び、傘置きを指差した。彼は「分かった。ありがとう。」とでも言うように、私に一礼した。私の挑戦は成功した。「あいさつを返してもらいたい」という自分勝手な挑戦は彼にとっても「日本語分から

ないけど自分から話しかけてみよう」と思わせる良いきっかけになったと思った。また、私自身もコミュニケーションをとることの喜びや楽しみを覚え、彼のために費やした時間は無駄じゃなかったんだと思った。

今までは自分のためになることしか考えてこなかった。でも、今回、彼のおかげで人のために何かすることは、もちろんその人のためにもなるが自分のためにもなるということも学んだ。そして、コミュニケーションをとることの大切さ、諦めずに取り組むことが大事だということ……も。

これで一人、あいさつを返してくれる人が増えた。中国語しか話せない彼があいさつしてののを見たから、きっと他のみんなもあいさつ返してくれるよね。私は毎朝昇降口でみんなからの「おはよう」を待っているよ。

「あいさつ」は国境を越えて、世界中の人々をつないでいる。たとえ、発音や文字での表し方が違ってても。私は「あいさつ」でできる、人とのつながりを大切にしていきたいと考えている。それは自分への「挑戦」だ。でも、その「挑戦」はいつか必ず「成長」につながる。このことを教えてくれた彼には本当に感謝したい。

「謝謝(シェーシェー)。」

彼のおかげで、あいさつの大切さを再認識することができました。言語の違いはあっても、どの国にも「おはよう」に代わる言葉はあります。彼と初めて「あいさつ」を通して繋がりが合えた時の達成感と感動はこの先ずっと忘れないでしょう。「あいさつは国境を越える」ということをたくさんの人に知ってもらいたいです。